

加速する
出版流通
システム

販売管理システムを短期間で導入 データの一元管理も実現

教育書出版社の学事出版は、今年5月に光和コンピューターの販売管理システムを稼働させた。以前使っていたシステムのサーバー容量が足りなくなり、当初予定より早い導入となつたようだ。カスタマイズは極力抑え、業務を新システムに合わせる形で短期間での導入を実現したという。

サーバーの容量不足で導入を決定

学事出版は1950年に創業した教育書専門の出版社。主に教員向け教育書と教材を発行しており、2012年の新刊点数は73点、稼働点数は約800点。このほか、月刊雑誌の『月刊プリンシパル』『中等教育資料』『月刊高校教育』『月刊生徒指導』『学校事務』、季刊雑誌の『授業づくりネットワーク』、学期刊雑誌の『使える授業ベーシック』という定期刊行物を発行している。

同社は7年ほど前からオフコン(AS400)の

出版システムを利用してきていたが、「データを活用するために、プリントアウトした帳票からパソコンに再度入力するといった手間がかかっていました」(総務部経理課・阿部麗司氏)など、使い勝手に問題を感じていたという。

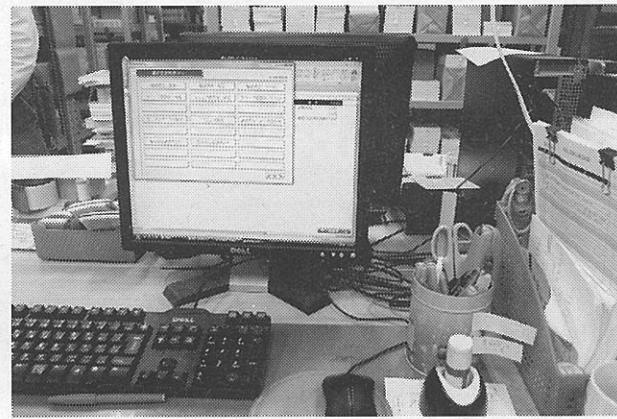
さらに、システムのサーバーが容量不足となり、そのままのシステムで対応するには大きな費用がかかることが判明。これを機会にパソコンのシステムに移行することを決定し、2012年2月頃から新システム移行の検討を開始した。

かったと思います」と安部社長は話す。

平行稼働1カ月でスタート

9月下旬から要件定義などの開発を開始。今

**学事出版
(東京都千代田区)**



商品管理部門に設置した端末。

4月に旧システムと新システムの平行稼働を1カ月間行った後、5月に本稼働に至るというスピードで作業を進めた。「修正点はまだありますが、とりあえず稼働することができた」と菅田課長。

短時間で稼働させるために、大きなカスタマイズは行わず、業務をシステムに合わせて変更した。

例えば、これまでには、日常の作業をパソコンで処理し、伝票を発行するためにオフコンに再入力していたため、入力のたびにチェックできていたが、新システムでは一度入力したデータがその後の作業にも反映されるため、かえってチェックができなくなる。こうした新たな業務の流れに慣れるために、「あと1年はかかるでしょう」(菅田課長)とみている。



自社ウェブや電話、FAXの直接注文(直販)が出荷の3割に達する。

データの一元管理を実現

それでも、新システムに移行することで、すべての在庫管理がリアルタイム化されるなど、メリットも大きいといふ。

具体的には、同社では取次や直販への出荷をすべて本社の商品管理部門で行っているといふが、これまで、直販はパソコンソフトで管理していくため、オフコンの在庫情報の引き当てが週に1

回で、実在庫とデータのズレが発生していた。新システムでは、すべて同じデータベースで処理するようになったため、在庫情報がリアルタイムに反映されるようになったといふ。

また、在庫の保管を委託している倉庫業者・大村紙業のウェブサービスを利用することで、倉庫の在庫もほぼリアルタイムに把握できるようになった。

データ蓄積されれば販促への活用も

また、販売や顧客管理などのデータベースが一元管理されるようになつたため、今後は過去の購入履歴などに応じて、ダイレクトメールを発送するなど、直販の顧客分析も可能になるとみている。ただ、現時点ではデータの蓄積が少ないが、「以前のシステムより細かい情報も入れるようになったので、あと3年ぐらい蓄積すると力を發揮すると思います」と阿部氏は期待を示している。



出荷はすべて本社の商品管理部門で行っている。



稼働全点を本社に在庫し、大村紙業から補充している。

学事出版(株)

設立: 1950年創業、1963年創立

資本金: 1380万円

代表者: 代表取締役社長 安部英行

所在地: 〒101-0021

東京都千代田区外神田2-2-3

電話: 03-3255-5471